

孤独死はいやですか？

ひとりで自宅で死ぬ・・・

というと、事件、事故のような、予想されない事態を想定することが多いでしょうか。

しかし昨今は、高齢者の独居世帯がどんどん増え、事件でも事故でもなく、

病気で、老衰で、ひとりで死ぬ『状況』は確実に増えています。

ひとりで死ぬ、ということは、どういうことなのか。それはあってはならないこと

なのか。どう処理をされているのか。どう対応をすべきなのか・・・

それぞれに全く背景の違う、東京／島根県山間部／登別での孤独死の現状を語り合いながら、

私たちの死に際について考えてみたいと思います。

入場
無料

【日程】 2020年3月7日(土)

開催時間／14:00～16:30 (開場13:30)

【場所】 登別市民会館 2階 中ホール (登別市富士町7丁目33番地)

- プログラム
- 14:00～14:15 基調講演「ひとりで死ぬ人はどのくらいいるか」 皆川夏樹
 - 14:15～14:55 「東京での孤独死の実態」 嵯峨崎泰子
 - 15:00～15:40 「島根県の中山間部での人生の最後一なかなか独りでは死ねない」 鈴木賢二
 - 15:40～15:50 「住民主体の登別の見守り活動について」 坂本大輔 (登別市社会福祉協議会)
 - 15:50～16:30 シンポジウム／質疑応答 「孤独死は防げるのか？」

嵯峨崎 泰子

島根県松江市生まれ。公立看護専門学校卒業、日本女子大学卒業。看護師として病院勤務後、伊藤忠グループ医療専門商社にて臨床コーディネーターとして勤務。ニューヨーク大学医療センター、ユタ州立大小児医療センター等で技術トレーニングを受ける。1995年がんに罹患。南雲吉則氏率いるキャンサーネットジャパン(CNJ)のボランティアナースとして活動。2002年江東区でCNJのボランティア仲間と医療法人社団ユメイン野崎クリニックを開業し外来・在宅医療に従事。2003年日本医療コーディネーター協会設立。



昨年に引き続き2度目の登場。大都会東京の「死に方」の事情を大いに語って頂きます。



鈴木 賢二

1980年松江市立第一中学校卒業 1983年島根県立松江北高校卒業 1989年島根医科大学(現島根大学医学部)卒業 1995年島根県仁多町立仁多病院(現:町立奥出雲病院) 2016年 町立奥出雲病院院長 消化器外科専門医・指導医/がん薬物療法専門医・指導医 写真は、隠岐の島ウルトラマラソンでの雄姿。25年の長きに渡って、島根山間部の地域医療を担っておられます。

皆川 夏樹 2013年登別にてみながわ往診クリニック開院。在宅訪問診療に携わって25年。今年は「孤独死」に取り組んでいます。/ 今回の三人は、松江第一中学校・松江北高校の同窓生です。

- 主催: みながわ往診クリニック
- 後援: 登別市 室蘭市医師会 北海道看護協会室蘭支部 社会福祉法人登別市社会福祉協議会 西いぶりが在宅ケア連絡会 室蘭民報社 北海道新聞室蘭支社

★お問い合わせは、みながわ往診クリニック (0143-83-5962 / minagawa@aroma.ocn.ne.jp) まで